

安曇野市名誉市民 熊井啓 生誕90年



安曇野市名誉市民で映画監督の熊井啓氏（1930 - 2007）は、緻密な取材のもと、日本の近現代の社会問題や社会事件を主題とした作品を数多く製作し、「社会派」映画監督として日本の映画界に多大な功績を遺しました。平成元年に撮影された『本覺坊遺文千利休』では、ヴェネチア国際映画祭において銀獅子賞を受賞するなど、世界的にも評価を得ています。

11月28日・29日、生誕90年を記念した上映会と熊井啓氏の妻でエッセイストの熊井明子さんによる講演会（29日のみ）が行われました。

☎文化課文化振興担当 TEL71・2463 FAX71・2338

【記念上映会】

●『帝銀事件 死刑囚』（1964 製作）

毒薬を用いた強盗殺人事件で平沢貞通氏が逮捕・死刑判決となった現実の事件について映画化したものです。劇中では、旧日本軍やGHQの関係者が事件に関与しているために、証拠が曖昧のまま平沢氏が死刑判決となってしまいます。冤罪の恐ろしさについて考えさせられる監督デビュー作品です。

●『愛する』（1997 製作）

若い男女の恋愛模様にはンセン病が影を落とす物語です。愛することの尊さや病気に関する社会問題が描かれています。製作にあたっては、安曇野各所でロケが行われました。

《参加者の感想》

- ・人が人を裁く難しさが映画になっている（帝銀事件 死刑囚）
- ・病気の差別について考えさせられた（愛する）

【熊井明子講演会】

上映2作品について、妻の視点から製作秘話を明かしていただきました。『帝銀事件 死刑囚』では、平沢氏との面談や捜査資料の検証など、監督自身が綿密な調査を行っていたことを教えていただきました。また、当時はデビュー作の出来栄が監督の評価に直結する慣習があったことに触れ、映画製作のため、私生活を見直して臨んだことなどをお話いただきました。



『愛する』については、ハンセン病の療養所や元患者への取材のほか、安曇野ロケのエピソードも教えていただきました。また、新型コロナウイルス感染症に関する差別にも触れ、病気による差別は現代に通じるテーマとしてお話されていました。

故郷を愛した映画監督

時には鋭く、時には優しい目で社会を見つめ、スクリーンに描き続けた巨匠は、信州や安曇野の自然風景を自分の故郷として愛していました。

昭和5年に豊科で生まれ、幼少期を過ごした後、学生時代を松本で過ごし、仲間とともに演劇や映画に熱中しました。映画監督を目指し上京しますが、「都会の気ぜわしい生活に耐えきれなくなったとき、あるいは創作に行き詰ったとき、常に思い起こすのは、故郷の清冽な山河であり、私を今日まで温かく見守ってくれた方々の姿です」と故郷への想いを語っています。

輝かしい功績を紹介 熊井啓記念館

熊井啓氏の業績を市民の皆さんに知っていただくため、豊科交流学习センター「きぼう」の2階に熊井啓記念館を開設しています。製作した映画に関する貴重な資料や写真などを展示しています。

入館無料ですので、気軽にお立ち寄りください。

☎月曜日、祝日の翌日

市への寄附に感謝状を贈呈

1/4・5 寄附受納・感謝状贈呈式

多大なご寄附をいただいた皆さんに、市表彰規則に基づき、感謝状の贈呈を行いました。

◆高木初見さん

日展会友の陶芸家・高木初見さん（豊科）より、市制施行15周年を記念し、創作の原点である安曇野市での活用を目的として、全国的な公募展で優秀な成績を収めた陶芸作品2点を寄附していただきました。同作品は、3月末まで市役所1階に展示しています。

※作品名『奏春』（写真左）、『翔雪』（写真右）

◆株式会社アイダエナジー

市内を中心にガソリンスタンドやリフォームなど多岐にわたる事業を展開する株式会社アイダエナジー（曾田恵司代表取締役）より、市内緑化活動の推進のため、金員の寄附をいただきました。同社には、平成28年度から毎年寄附をいただいています。



新年の思いを胸に駆ける

1/1 新春さわやか元旦マラソン

毎年恒例の新春さわやか元旦マラソンが開催されました。堀金常念ドーム前をスタートし、澄み切った空気の中、拾ヶ堰沿いの2km・3km・5kmのコースを約180人のランナーが走り抜けました。今回初めて参加した、三郷中学校陸上部の松永泰誠さんは「年初めの元旦マラソンで体をしっかり動かし、部活動では入賞を目指したい」と新年の目標を話してくれました。



熱い要望に応え「友好りんご便」

12/19 安曇野農業経営者の会 三郷市へりんご発送

市内などの若手農家で構成する「安曇野農業経営者の会」（古田然会長）が、りんご約1.5トンを友好都市・埼玉県三郷市へ送りました。新型コロナウイルス感染症の影響により、同市の産業フェスタで毎年行ってきたりんごの直売会が中止となりましたが、「安曇野のりんごが食べたい」との熱い要望を受け、同会有志が準備した「友好りんご便」が、生産者の想いととも届けられました。